③　熊野様の霊験

今を遡る事凡そ百年近くも昔の事である。仙南の熊堂部落の通称「本吉の家」の里子で、「寅子」と俗に呼ばれた可愛い男の子がいた。此の子の本名は確か「寅吉」だったと記憶している。此の子は元々ひ弱に生まれつき、日頃病気がちの子だったので、部落の人達はこれを気の毒に思い、誰言うとなく「みんなで部落の産土神の熊野さんに願掛けをし、寅子を丈夫にしようではないか？」と言う事になり、みんなでその日取りを決め、部落の子供達まで含めた大勢の人達が神社に集まり、熊野様に願掛けをしたものだった。その後、此のお百度参りの真心が熊野様に通じたものか、寅子は日増しに丈夫な子になり、近所の子供達と元気に遊べるようになり、みんなが我が事のようにこれを喜ぶと共に改めて熊野様の霊験を信じ合ったものだった。

こうして幾年か過ぎた或る年の宵宮の時の事。寅子も母におんぶして大勢の人達と一緒に、熊野様にお参りした訳だったが、丁度、神官殿の祭儀が始められた頃「おや、あのお宮の奥にいる綺麗な女子は誰だべぇー？」と、寅子は叫ぶように言うので、みんなは吃驚してお宮の奥に目を向けたが、どこにもそのような女は見当たらなかった。母親は「何だべぇー今晩の此の子は不思議な事を言うもんだなぁー、誰もそんな人は見当たらねぇでや」と側近くにいる人達と話し合ったものだった。此の熊野神社（詳細後記第十章参照）は伊弉諾尊と伊弉冊尊を祭神としており、此の神の寅子への慈悲の心が美しい女のお姿となり、宵宮の篝火に輝いて寅子の目に見えたものや……。